

第1回 金沢競馬経営評価委員会 会議録(要旨)

日時：平成21年9月1日(火) 13:30～

場所：石川県庁11階 1105会議室

<開 会>

○あいさつ(石川県競馬事業局長)

○委員長・委員長代理選任について

委員長は、丸山委員、委員長代理は西委員に決定

○金沢競馬経営評価委員会設置要綱と運営要領(案)について

原案どおり決定

○経営改善計画2カ年の業績について

(資料2 金沢競馬経営改善計画2カ年(平成19・20年度)の業績概況他の説明後、質疑応答)

委 員： 在宅投票の内訳は、インターネットと電話投票では、内訳はどうか。

事 務 局： インターネットは9割、電話投票は1割と言う傾向になっている。

委 員： インターネットが高い伸びを示しているが、順調に伸び続けているのか、頭打ちになってきているのか？

事 務 局： 非常に高い傾向が続いている。21年度第9回までで、昨年度比41.5%増になっている。

委 員： リーマンブラザーズの影響を受けていないのか。

事 務 局： インターネット投票については、手軽に参加できる簡便性によるものではないかと思う。

委 員： ネット投票の伸びは件数か、売り上げか？

事 務 局： 今年の売り上げである。

委 員： 19～20年度に電話投票が伸びているが、特殊な要因があるのか？

事 務 局： 19年度より競馬モール(楽天グループ会社)参入により売り上げが伸びている。

委 員： 他場発売も伸びているがどんな要因か？

事 務 局： 各競馬場連携強化を全国的に進めている。20年度までは30%の高い伸びとなっている。

委 員： 他場の単価はどうか？

事 務 局： 件数的には高い伸びを示しているが、一人当たりの購入単価の方は下がっている。入場者数は多くなっている。

委 員： 20年度は全国的にリーマンショックの影響がある。金沢競馬場においても20年度後半売得額が減っているが、リーマンショックの影響か。

また、19年度、20年度の収支で黒字の要因は人件費の削減でよいのか。

事務局：リーマンショックの影響については、21年度上半期で次回までに分析をしたいと思っている。ひとつ言えることは、自場発売は購入単価が下がっていて厳しい状況にある事は事実だと思う。

昨年度についても、秋以降、その辺の傾向をもう一度きちっとデーターを押さえて今年度末の方も含め、改めて整理をしてみたいと思う。

人件費と開催経費については、削減率が一番大きい項目をピックアップしたもので、人件費の削減が収支の改善につながったひとつの要因になったと理解している。

委員：人件費は人を減らしたのか？

事務局：のちほど、取組状況の中で人数の削減経緯を説明するが、単価と言うよりも人の数と考えていただければよい。

○経営改善計画の取組状況について

(資料3 経営改善計画の取組状況(平成19~21年度)の説明後、質疑応答)

委員：事業局の努力が伺えるが、自場開催はなかなか上昇気流にのれていない。経済不安、人や馬インフルエンザによる影響もあると思う。

人件費、諸経費の割愛によって黒字化しているが、まやかしてきた印象を受ける。

公営ギャンブルの中でも、競馬は、馬・騎手・調教師・厩務員と経費がかかる。しかし市民の大きな憩いの場、根強いファンのためにもあきらめるわけにはいかず、非常に悩ましい公営ギャンブルだと思う。

委員：全体的にはがんばっていると思う。本場はどこも売得が減っている。自場は収益率が高いのでがんばってほしい。

他場連携・在宅投票は、19、20年度は売得が伸びており成果が上がっていると思う。今後もいい番組や広報PRにがんばってほしい。

在宅投票については、ネット会社に払う負担率にきわめて問題があると思う。全国の主催者と力を併せて収益率をあげないともったいない。そのへん気配りしながら経営改善していただければと思う。

委員：短期・中期については、総じて2重丸が多く、取り組みは進んでいると思うが、魅力あるレース番組の提供など、実施したとして終わることなく、項目ごとに強弱をつけて継続して事業を実施していく必要がある。

委員：自場発売と在宅投票、他場発売の収益率の内訳はどうなっているか？

事務局：自場分が24%、他場分が9%、電話投票分が9%で100万円だと、24万円、11万円、9万円となる。

委員：インターネット会社、電話会社にどれくらい収めているのか？

事務局：色々な発売方式がるが、総売得から見ますとだいたい13%程になってい

る。楽天は11%、オッズパークは13%となっている。

委員： 自場発売は、75%が運営費か？

事務局： 売り上げの75%を払い戻しという形でお客様にお返ししている。

委員： 他場発売、在宅投票の場合は？

事務局： 他場発売については、売り上げの75%を払い戻しし、15%相当を売ってもらった主催者に手数料として支払いし、9%が利益として残る。

在宅投票については、オッズパーク・競馬モールに対して約13%相当を支払いし、11%が利益をとる。

委員： 改善計画で数値目標を出したが、20年度では一日当たりの売得額に対して目標をクリアしたが、21年度では目標をクリアできるのか？

単年度収支の黒字化は今年も達成できるのか？

事務局： 今の段階で、今年度収支を見通すのは、非常に難しくご理解いただきたい。

昨年秋以降の景気後退で大変厳しい状況がある中、経費削減など可能な限りの努力は継続してやってまいりたい。

9月下旬の産業委員会にて、県営9回までの報告は行うが、年度収支については、どこまで判断できるかは今の段階では見通しが立っていない。

事業局（市）： 市営競馬についても3開催の内、1開催が残っているため、その1開催の成績によって収支の影響が大きく左右されるため、県と同じく現段階で判断は難しい。

委員： 若者や女性の来場が促進できないかとの議論があったがどうか？

事務局： ご指摘の通り、各イベントを実施し、若者層の来場は、増えていると思うが、売得の伸びまでには結びついていない。

委員： 大井・川崎のナイターを観戦に行く機会があるが、来場者を見ているとギャンブルの罪悪感をもたず、アミューズメントゾーンのようにになっている。

金沢にはまだそうした罪悪感のようなものが残っているように思う。

金沢競馬は、ナイター設備の設置がなく、昼の時間に限られ、サラリーマン層には、自場開催の来場は難しいと思う。

<閉 会>